

科研費(基盤C)「戦後日本における労働者像の生成と文化に関する総合的研究:サラリーマンの社会文化史」

研究成果公开发表

基調講演 ● アンドルー・ゴードン [ハーバード大学]

研究発表 ● 清水剛 [東京大学]・榎一江 [法政大学]・坪井秀人 [早稲田大学]

司会 ● 鈴木貴宇 [早稲田大学]

戦後

占領期の民主化政策にてなされた労働改革の時期を起点に、高度経済成長期までの労働者像の変遷を文化史、経済史、経営史の領域から総合的に考察を行う

日本の

歴史・経営・文化

労働者像

Portraits of Japanese Laborers in the Postwar Era: Insights from History, Management, and Culture.

2024 12.23 月曜

13:00-17:30

早稲田大学国際会議場
第2会議室

対面のみの開催
申し込み不要

問い合わせ先 ● 鈴木貴宇 stakane@waseda.jp

東京大学

早稲田大学

趣意文

敗戦による民主化を経て身分制度の撤廃が職場内で行なわれた結果、誰もが「サラリーマン」となり得ることで、会社組織との一体化と「日本人男性」というアイデンティティ、私的領域に属する「家（マイホーム）」の獲得までもが「平均的な暮らし」として、長らく戦後日本社会では期待されることになった。そのとき切り捨てられることになった労働のかたちはどのように不可視化されることになったのか。この問いを明らかにするため、本研究は占領期の民主化政策にてなされた労働改革の時期を起点に、高度経済成長期までの労働者像の変遷を文化史、経済史、経営史の領域から総合的に考察を行うものである。

登壇者



基調講演

アンドルー・ゴードン
[ハーバード大学歴史学部教授
/東京カレッジ客員教授]
Andrew Gordon



研究発表

榎一江
[法政大学大原社会問題研究所教授]
Enoki Kazue



研究発表

坪井秀人
[早稲田大学文学学術院教授]
Tsuboi Hideto



研究発表

清水剛
[東京大学大学院総合文化研究科教授]
Shimizu Takeshi



司会/通訳

鈴木貴宇
[早稲田大学文学学術院教授]
Suzuki Takane

タイム スケジュール

12:30 開場

13:00-13:05 趣旨説明 鈴木貴宇

13:05-14:05 基調講演 アンドルー・ゴードン（英語・通訳あり）
「戦後日本労働史の再検討」

Rethinking the History of Postwar Japanese Labor

休憩（10分）

14:15-15:00 榎一江「働く女性の歴史をめぐって」

15:00-15:45 清水剛「「サラリーマン」像と「主婦」像の変容—会社との関係を中心に—」

15:45-16:30 坪井秀人「労働者が書くこと—1950年代サークル文学論のために—」

休憩（15分）

16:45-17:15 ディスカッション・質疑応答

会場 案内

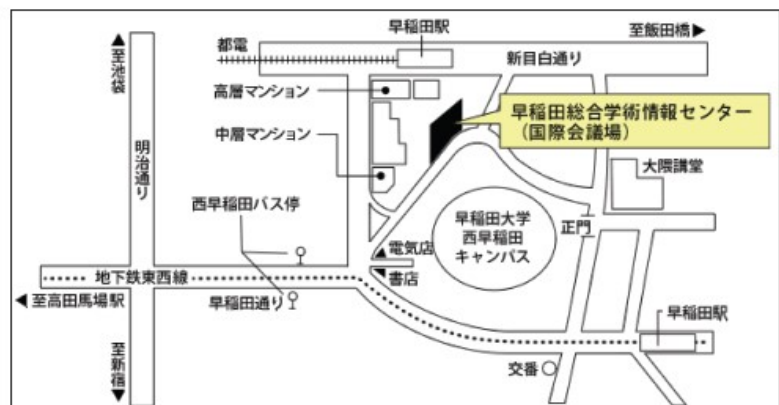
早稲田大学国際会議場第二会議室

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-20-14

Tel:03-5286-1755

交通アクセス

- 高田馬場駅より早大正門行きバス
西早稲田下車 徒歩3分
- 地下鉄東西線早稲田駅より 徒歩10分
- 都電 早稲田駅より 徒歩2分



科研費

この活動は科学研究費補助金(基盤研究C)「戦後日本における労働者像の生成と文化に関する総合的研究:サラリーマンの社会文化史」
課題番号22K01842の助成を受けています。